

氏名	Luis Fernando Moreira		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博甲第 1318 号		
学位授与の日付	平成7年 3月25日		
学位授与の要件	医学研究科 外科系外科学 (一) 専攻 (学位規則第4条第1項該当)		
学位論文題目	Assessment of Apoptosis in Oesophageal Carcinoma Preoperatively Treated by Chemotherapy and Radiotherapy(食道癌における術前放射線化学療法によるアポトーシス誘導の検討)		
論文審査委員	教授 平木 祥夫	教授 清水 信義	教授 赤木 忠厚

学位論文内容の要旨

食道癌55症例を用いて、プログラムされた細胞死ーアポトーシスーを検討した。アポトーシス細胞はヘマトキシリン・エオジン染色，アポトーシスの前兆を表わすとされる BMI 抗体を用いた免疫染色，断裂した DNA を認認する TUNEL 法（ニックエンド ラベリング法）を用いて検索し，癌遺伝子 bcl 2, p 53の染色を併せ行った。術前無治療群（グループ 1, n = 12), 術前化学療法群（グループ 2, n = 11), 術前放射線治療群（グループ 3, n = 11), 術前放射線・化学療法群（グループ 4, n = 10) の進行食道癌症例および高度異型粘膜症例，早期食道癌症例11例において検討を行った。

組織形態学的にアポトーシスをきたした細胞のほとんどは BM 1 陽性でかつニックエンド陽性であった。各グループの 1 視野あたりのアポトーシス細胞の比率は 11, 29, 32, 38%であった。化学療法と放射線療法は，いずれも無治療群に比して有意にアポトーシス細胞が増加していた。癌遺伝子の検討では bcl 2 はすべて陰性で p 53は 16例（37%）で陽性であった。すべてのグループにおいて p 53陽性例では有意にアポトーシス細胞発現頻度が低かった。（P=0.03）。

これらの結果より，腫瘍組織を用いたアポトーシスの検討により化学療法，放射線療法の感受性が推定でき，p 53発現の異常（ミュータントの発現）はアポトーシスの誘導に対して低感受性であり，臨床における化学療法，放射線療法の効果の推測が可能であることが示唆された。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は食道癌55症例の腫瘍組織標本を用い、ア朴-シについて研究したものであるが、従来十分解明されていなかった化学療法、放射線療法によるア朴-シ誘導ならびに癌遺伝子の関与に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。
よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。